



学校だより

令和6年 12月25日

東京都立村山特別支援学校

校長 阿部 智子

〒208-0012

武蔵村山市緑が丘 1460 番地 1

電話：042-564-2781

「備えあればうれいなし。準備万端の計画を考えましょう。」



このまま寒くならないのではないか、とってしまうくらい今年の夏は暑かったです。12月になり、やはり、北風の冷たい冬はやってきました。緑が丘校舎での学校生活も1年が過ぎました。ここの生活でも、子供たちは、動き、考え、学び、成長しています。仮設校舎の裏の畑では、この寒さの中、ダイコンがぐいーっと、地面からせり出して成長ぶりをアピールしています。黄色いパンジーは、寒さの中、肩を寄せ合うように、「ぎっちり」と咲いていますが、見ている我々が元気になるパワーをもらえます。令和6年の緑が丘校舎での学びが、春に向けてさらなる学びにつながっていくように寒さに負けずに取り組んでまいります。



終業式ではこの冬休みの過ごし方と、令和7年の1年の初めに立てる計画について、お話をしました。12月の避難訓練で「備えあればうれいなし」ということわざの話を、児童・生徒にしましたので、再度、そのお話をしました。意味は、準備をしっかりとしていれば、いざと言うとき結果がどうかと心配することはない。十分に準備をしていれば、オロオロと心配せずに平常心でいられるというものです。「うれしい」という言葉は「憂い」→「憂鬱（ゆううつ）」気持ちがふさぐこと。もう一つの「患い」→「患者（かんじゃ）」病気になること。の「憂い（うれい）」「患い（うれい）」両方の漢字が用いられます。「備えがあれば、気持ちの面からも体の面からも心配することはない」と解釈することができるのだと思います。冬季休業中は短い期間ですが、御家族、御親戚で集まることの多い時期でもあります。「備え」とは防災ばかりではありません。心も体も安心して毎日取り組んでいくための計画をしっかりと立てて1年を始めていきたいと思いますという話をいたしました。

【私の一字】

私は教諭時代、年の初めに今年の自分の目標や取り組み方を考えて漢字一文字に表すという書道の授業を行っていました。今年の世相を表す漢字を、年末に発表するというものとは少し違います。今年は「金」でしたね。

私が今年1月に私の一字として子供たちに伝えた令和6年の漢字は、「調」（ちょう・しらべる・ととのう）でした。小学校3年生で習う漢字の一つです。調和、調整、順調、好調、調べる、調査などという熟語があります。

『今年の私の漢字一字は「しらべる」「ととのえる」「物事のつり合いがよくとれる」という漢字です。本当にこれでいいかな？としっかり調べて勉強して、物事の調和を考えて動く。そういう1年にします。』と宣言していました。しかし、私は4月に村山特別支援学校に異動してきましたので「ととのえる」という余裕のある1年ではなかったと反省をしています。今年も早かったという感想をもっています。いかがでしょうか？今年もまた、私は、焦りながら年末を迎えています。

さて来年の私の一字は何にしようか。私の年末の宿題です。御家族で顔を合わせ、一年の計について子供たちとたっぷりと話ができるのが、このお正月の時期であろうと思います。皆様の来年はどのような年になるのでしょうか。

子供たちには、毎日の生活の中で自分を大切にすること、また、自分が大切にされていることをしっかりと受け止めることを終業式の校長講話の中でも話しました。一つ年を重ねていく上で、コツコツと小さなことを積み重ねていくためには様々なコミュニティーが集う学校現場でも、大人も子供も「調整力」を高めていくことは重要です。来年も「言葉にこだわる1年に、言葉を大切にする1年にしたい」と考えます。



【文部科学省 菅野和彦視学官が来校】



全国特別支援学校肢体不自由教育校長会主催の研究協議会、熊本市市民会館シアーズホーム夢ホールにて、「12年間を見通した効果的、系統的授業の在り方研究～音楽[共通事項]を通して～」をテーマに、ポスター発表を行って来たということは学校日より12月号でお知らせいたしましたが、児童・生徒が各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるように工夫をしている授業実践の取組として、12月12日、文部科学省 初等中等教育局視学官（併）特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野和彦先生が、本校に授業の視察にお越しになりました。

菅野視学官は、資質・能力を育成するための授業づくりに大切なこととして『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うに当たっては、児童・生徒が各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることができるようにすることが重要である。特に、「深い学び」の実現に当たっては、習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることを踏まえて、学習の充実を図ることが求められる。』とおっしゃっています。参観いただいた本単元では、児童が「音楽の授業を通して自分のパートだけではなく、全体で奏でる音の強弱や音の重なりをどう表現するのかをみんなで考える。」ことに取り組んでおり、菅野視学官からは、この授業の方策や手立てについての提案や今後の授業の展開についての御助言をいただくことができました。熊本での発表から、新たな切り口での授業改善に取り組むことが、子供たちの学びを深めることにつながってきました。キラキラ輝く子供たちの学びたいという思いを大切にに取り組んでいます。

【授業改善、授業実践のための研究報告会12月12日】



二人の講師の先生をお招きし、研究部主任の国語の研究授業を参観していただきました。元筑波大学教授、前筑波大学付属桐が丘特別支援学校校長、元文部科学省初等中等教育局特別支援教育調査官 下山直人先生と、東京都立小平特別支援学校指導教諭 椎名久乃先生です。下山先生には、今年5月29日にもお越しただいて、学習指導要領に準拠した教育課程、障害の重い子供のための学びの地図としての学習指導要領、各教科を学ぶ意義、文部科学省著作教科書（☆本）を使用した授業について指導事例を御教授いた

しています。12月12日の全校報告会では、6月以降の本校での取り組みについて報告し、授業改善の状況、授業での生徒の様子について、御助言をいただきました。

今回、校内で何度か研究授業を行い、授業の進め方の検討、言葉掛けや展開を変えることによって、生徒の授業への集中の仕方が変わってくるということがありました。先生方の御講演後のパネルディスカッションは短時間ではありましたが、授業者の気付きや疑問に対して、研究の方向性など鋭い御意見をいただきました。全体終了後も、研究部員やもう少しお話を聞いてみたいという教員が集まり、意見交換会も行うことができました。学校全体として、今後も丁寧に授業づくりに向き合っていきたいと思えます。



【2024年(令和6年)ありがとうございました】

新型コロナウイルス感染症が、昨年、令和5年5月8日から「5類感染症」の位置付けとされ、学校生活でも、落ち着いて学習できるようになり、今年度は各学部の宿泊行事も無事行うことができました。しかしながら、常にコロナ感染、インフルエンザ感染などに敏感に反応しながらですので、生活が全て元に戻るということではありませんが、学びを止めずに2025年(令和7年)を迎えることができます。御理解、御協力に感謝申し上げます。次年度は教育課程、下校時間等での変更点が生じることとなりますので、改めて説明させていただくお時間をいただきます。御理解のほどお願いいたします。令和7年1月8日(水)が始業式となります。穏やかなお正月をお過ごしください。